

第6回江別市行政審議会 議事録

日 時：令和5年5月31日（水） 午後6時～午後7時

場 所：江別市民会館3階37号室

出席者：明神委員、新田委員、村瀬委員、岡委員、春日委員、鎌田委員、前田委員、佐藤委員、清水委員、成田委員、西村委員、星委員、町村委員、山崎委員、猪狩委員、小野秀司委員、小野豊勝委員、本山委員 計18名

欠席者：井上委員、竹田委員 計2名

事務局：後藤市長、川上企画政策部長、伊藤企画政策部次長、水口参事（総合計画・総合戦略担当）、北島主査（総合計画・総合戦略担当）、眞鍋主査（総合計画・総合戦略担当）

傍聴者：3名

1 開会

（明神会長）

ただいまから、第6回江別市行政審議会を開会いたします。

なお、本日、井上委員、竹田委員から欠席のご連絡をいただいておりますので、ご報告いたします。

議事に入る前に、本日の審議会に傍聴希望者がいらっしゃいます。発言権はなく、傍聴のみということで入室を許可したいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

それでは、傍聴を許可いたします。傍聴者の入室をお願いします。

（傍聴者入室）

2 委嘱状交付

（明神会長）

それでは、議事に入ります。

なお、次第2及び3の議事については、事務局に進行をお願いします。

（事務局）

それでは、私が進行してまいりますので、よろしく願いいたします。

次第2であります。この度、2名の委員に交代がありましたので、皆様にご報告するとともに、新たに就任される委員に対する委嘱状の交付を行います。

これまで、江別市自治会連絡協議会から選出されていた、内海委員に代わり、新たに村瀬委員が、江別市PTA連合会から選出されていた、齋藤委員に代わり、新たに前田委員が就任されます。

私から、お一人ずつ、お名前をお呼びいたしますので、その場でご起立いただき、市長から委嘱状をお受け取りください。

（市長から委嘱状を交付）

3 挨拶

(事務局)

次に、次第3の挨拶に移ります。後藤市長から、ご挨拶申し上げます。

(後藤市長)

市長の後藤でございます。第6回江別市行政審議会の開催にあたり、ご挨拶申し上げます。

はじめに、私は、4月に行われた統一地方選挙で市長に当選いたしまして、5月から市長に就任しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

この度、4期16年にわたって市政を運営されてきた、三好前市長の勇退を受けて、これからの江別市の方向性を示す第7次江別市総合計画の策定は、江別市の職員として長年業務に当たってきた私が引き継ぐこととなります。この計画の中に私の思いを込め、より良い計画づくりに向けて、決意を新たにしているところでございます。

そこで、まず、皆様には、昨年8月から、これまでに5回の全体会に加え、二つの専門部会それぞれ2回にわたるご審議をいただき、多くのご意見を頂戴しておりますことに、心から感謝申し上げます。

また、村瀬委員及び前田委員におかれましては、本審議会の委員をお引き受けいただきましたことに、お礼申し上げます。

さて、令和2年当初から、私たちの生活に多大な影響を与えてきた新型コロナウイルス感染症が、5月8日から感染症法上の分類が5類に移行いたしました。

ようやく、かつての日常を取り戻しつつある一方で、ロシアによるウクライナ侵攻の影響などを受けまして、エネルギーや食料品価格の高騰が続いており、これが、市民生活に大きな影響を及ぼしています。

江別市では、この状況を重く受け止め、現在、国や北海道と連携しながら、物価高騰対策をはじめ、低所得世帯や子育て世帯などに対する支援の準備を進めているところでございますので、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

総合計画の話に戻しまして、私は選挙期間中から、「江別を笑顔あふれるまちにしたい」、「人にも、企業にも選ばれるまちにしたい」ということを訴えてまいりました。

そして、これまで本審議会でご審議いただいております「まちづくりの基本理念」や「将来都市像」、「まちづくり政策」は、いずれも私が目指す「まちづくりの方向性」と一致していると考えております。

したがって、「えべつまちづくり未来構想」については、これまでの案のとおり、進めてまいりますので、引き続きご審議のほど、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、第7次江別市総合計画は、今後10年間のまちづくりの方向性を示す指針となる重要な計画です。

10年後に、子どもから高齢の方まで、全ての市民が、笑顔で幸せを感じていただける、そんなまちをつくってまいりたいと考えておりますので、本審議会において、引き続き、皆様から忌憚のないご意見を頂戴いたしますよう、よろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。なお、後ほどの審議事項であります「えべつ未来戦略」の案につきましても、市長からご説明いたします。

それでは、ここからの進行は、明神会長にお願いしたいと思います。明神会長、よろしくお願いいたします。

4 審議事項

(1) 第7次江別市総合計画「えべつまちづくり未来構想」の案について

(明神会長)

それでは、新たに委員に就任された村瀬委員と前田委員におかれましては、どうぞよろしくお願ひいたします。

また、後藤市長におかれましても、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、次第4の審議事項、(1)「えべつまちづくり未来構想」の案についてを議題とします。

本件につきましては、前回審議した構想部分の構成案に、江別市の概要やまちづくりの主な課題などの内容を加えたものであります。

それでは、事務局から資料1及び2を一括して説明願ひます。

(事務局)

私から、第7次江別市総合計画「えべつまちづくり未来構想」の案について、ご説明申し上げます。

資料1をご覧願ひます。

江別市総合計画は、「えべつまちづくり未来構想」と「えべつ未来戦略」の2本柱で構成しておりますが、昨年8月の行政審議会設置以降、「えべつまちづくり未来構想」について、ご審議いただけてまいりました。

そして、皆様からこれまでにいただいた、様々なご意見をもとに、適宜、調整を図ってきたところであり、前回の審議会では、構想部分の前段に掲げる、策定の趣旨のほか、江別市の現状や課題などについての項目を列記してお示したところでもあります。

そこで、本日は、新市長の体制の下、それらの項目に詳細な文言を検討して入れ込んだほか、これまでに得られた市民意見や、この行政審議会でもいただいた様々なご意見を基に創り上げた「えべつまちづくり未来構想」をご覧いただきたいと思ひます。

なお、今回から就任された委員もいらっしゃいますことから、これまでの経過をご理解いただけるよう、説明してまいりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、1枚ページをおめくりください。

総合計画は、内容の充実に努めるのはもちろんのこと、これまで市民の皆さんの目に触れる機会がどれほどあったのか、また、認知度が高くないのであれば、ご覧いただけるような構成や見せ方にするのも一つの手法であるとの考えを持ちながら、検討を進めてまいりました。

その結果、まず、冒頭で、総合計画の将来都市像「幸せが未来へつづくまち えべつ」を見開きページでPRするレイアウトにいたしました。

なお、この見開きページには、現在、子どものイラストが並んでいますが、総合計画を製本する際には、赤文字で記載のとおり、今年度に市が行う「子育て応援のまち・えべつ Instagramフォトキャンペーン」に投稿された子どもたちの実際の写真を掲載したいと考えております。

これにより、市の他の事業との連携を図りながら、子どもたちのあふれる笑顔とともに、将来都市像を紹介することができるのではないかと考えております。

もう1枚ページをおめくりください。

こちらも見開きページとして、総合計画の全体の体系を掲載しております。

これは、これまでに他自治体の総合計画を見てみると、ページを読み進めなければ計画の体系が見えない構成になっているものが多かったため、はじめに全体の体系と構成を示すことによって、より分かりやすい計画になるのではないかと考えたところでもあります。

もう1枚ページをおめくりください。

こちらは、目次を示しております。

総合計画では、章立てで構成することとし、第1章の「はじめに」では、江別市の概要と強みを記載することといたします。

次に、右側のページ、第2章「えべつまちづくり未来構想」、1の江別市総合計画についてでは、計画策定の目的、構成、期間及び策定の上で大切にしたいことを記載いたします。

次に、2の「まちづくりの主な課題」では、七つの課題を掲げ、それぞれの背景と江別市における課題を示しております。

そして、これまでに、この審議会で具体的にご審議いただいた、3のめぎすまの姿、4のまちづくり政策一覧へと続きます。

次のページをご覧ください。

1ページ及び2ページでは、第1章の中で示す、江別市の概要として、歴史、気象、自然、立地、産業について掲載しており、地図なども活用しながら示すことといたします。

次に、3ページと4ページをご覧ください。

この見開きページでは、江別市の強みを示すことといたします。

これは、これまでの市民参加の取組である「えべつの未来づくりミーティング」をはじめ、この行政審議会でも数多くのご意見をいただいたところでもあります。

具体的には、江別市の強みとして、素晴らしい資源や魅力が数多くあるため、これを総合計画の中でも分かりやすく、市内外の皆さんにPRするべきであるとの意見をいただきました。

この意見を受けて、資料に記載のとおり、子どもや若者が多いまち、共生社会への取組が進むまち、また、充実した交通アクセス、大自然、北海道遺産にも認定されている「江別のれんが」、そして、江別市が誇る農業に関する代表的な農作物などについて、皆様のご意見を踏まえ、また、市の担当部局の協力も得ながら、可能な限り分かりやすい表現となるよう努めました。

ここまでが、第1章で掲げる、江別市の概要と、強みであります。

次に、5ページをご覧ください。

ここからは、第2章として、「えべつまちづくり未来構想」を示すことといたします。

冒頭でも申し上げたとおり、目的、構成及び期間並びに策定の上で大切にしたいことを述べております。

この総合計画が何を目的にして策定するのかについては、重要なことですので、1の(1)計画を策定する目的について、読み上げてまいります。

江別市では、「江別市自治基本条例」に基づき、総合的・計画的なまちづくりを行うため、未来のまちの方向性を示す総合計画を策定することとしています。

現在は、ゆれ動く国際情勢をはじめ、景気の変動や、感染症の流行、大規模災害の発生などによって不安定な社会経済状況の中にあり、近い将来を見通すことが非常に難しい時代です。

しかし、このような状況でも、みんなで力を合わせ、これまでの意識や行動を、ときにつつましく、ときに力強く変えていくことで、「住み良いまち江別」を守っていくことができると思います。

この「住み良いまち」を守り、このまちに暮らす、みんなの幸せがいつまでも続くよう、市民と行政の協働により、未来の江別市に希望を持って描いた「第7次江別市総合計画」のもと、新たな時代を歩んでいきます。

以上が、計画を策定する目的であります。これまでも、この行政審議会の様々な場面で皆様とお話ししてきた内容を、こちらで表現いたしました。

次に、(2)計画の構成と期間であります。総合計画は、「えべつまちづくり未来構想」と、「えべつ未来戦略」の2本柱で構成し、構想は10年、戦略は5年をめどに見直すことといたします。

資料8ページをご覧ください。

次に、（３）策定する上で大切にしたことではありますが、こちらは、計画策定作業を開始する際に作成した策定方針の基本的な考え方を示したものであります。それは、

- 一つ目に、わかりやすい計画にすること。
- 二つ目に、市民の皆さんの声を取り入れた計画にすること。
- 三つ目に、未来に希望が持てる計画にすること。
- 四つ目に、持続可能なまちづくりを行う計画にすること。

の４点を掲げております。

資料９ページ及び１０ページをご覧ください。

今ほど申し上げた、大切にしたことの一つに、市民の皆さんの声を取り入れた計画にすることを掲げておりますが、総合計画策定の根拠条例となる江別市自治基本条例には、総合計画の策定に当たっては、多くの市民意見を反映させるため、必要な情報提供に努め、市民参加を積極的に進めるとされているため、多くの市民参加の取組を行ってまいりました。

資料９ページに記載のとおり、市民アンケート調査をはじめ、高校生Webアンケート調査や、えべつの未来づくりプロジェクトを行い、できるだけ多くの声を集めたほか、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受ける中、検討を重ねて企画した、少人数のグループと江別市の未来を語り合う「えべつの未来づくりミーティング」では、３０グループ、延べ１６０人の皆さんから、いろいろな立場の声をお聞きいたしました。

さらに、今回は、今ほど申し上げた「えべつの未来づくりミーティング」に、江別市の未来を担う市の若手職員も参加して、意見交換を行ったところであり、各グループの皆様からも高評価をいただいたところでもあります。

そして、資料１０ページでは、様々なご意見をもとに、江別市役所の職員が一丸となって計画を形作ってまいりました。

その際には、全職員を対象にしたアンケート調査も行うなどして、多くの考えを把握しながら取り組んでまいりました。

そして、創り上げた計画案について、現在、この行政審議会でご審議いただいているところでもあります。

なお、今後は、行政審議会から答申をいただいた後、計画の素案を確定させてパブリックコメントを行うほか、市民説明会などを通じて、素案の内容をお知らせしたいと考えております。

資料１１ページをご覧ください。

現行の総合計画では、江別市を取り巻く社会動向と、江別市の現状について述べた上で、「めぎすまちの姿」につなげておりましたが、次期の総合計画では、現状や問題だけではなく、江別市の課題も示した上で、「めぎすまちの姿」につなげるべきであると考えました。

そして、ここでは、まちづくりの主な課題として、七つ掲げることといたしました。

順に、概要を説明してまいります。１点目は、人口減少対策です。

江別市の人口は、平成１７年をピークに減少を続け、令和２年には、人口増加に転じましたが、今後は、人口減少の大きな流れの中で、江別市も人口が減少していく推計結果となっております。

人口減少は、労働力の不足をはじめ、地域経済の縮小などの様々な問題を次第に大きくさせていくことから、江別市の強みや特色、魅力などを生かしながら、人口減少対策を行う必要があるとしております。

資料１２ページに移りますが、２点目は、まちの経済活性化です。

地域経済は、現在、国際情勢の変化による影響を大きく受ける中、明るい兆しは、未だ見えておりません。

そのような中でも、まちの経済を活性化させるための取組を行うことが重要であり、市内企業や各種団体と連携しながら地域資源を有効活用して、江別市の強みを生かした企業

誘致などを行う必要があるとしております。

3点目は、デジタル技術の活用です。

国では、現在、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指して、デジタルの力を活用した取組を行う方針を打ち出しています。

江別市でも、人口減少下において、これまでの暮らしの質を下げることなく、また、人と人のつながりを大切にしながら、みんながデジタル化の便利さを感じることができるとまちづくりを行う必要があるとしています。

資料13ページに移りますが、4点目は、脱炭素・循環型社会への対応です。

世界的に深刻な問題となっている地球温暖化や気候変動などへの対応は、全ての国、全ての地域で、その対策に取り組まなければならないものとなっております。

江別市においても、身近な自然から、野幌森林公園のような大自然まで、次の世代に引き継いでいくための意識と、取組の実践が必要であるとしています。

5点目は、地域のつながりづくりです。

地域住民のつながりは、ライフスタイルの多様化や、高齢化に伴う地域活動の担い手不足などによって弱まっており、この状況が、孤立をはじめ、子どもや高齢者をねらった犯罪を引き起こすなど、大きな社会問題になっています。

江別市においても、この状況を重要なことと捉え、いつまでも、このまちで、安全に、安心して住み続けられるよう、地域のつながりの重要性を再認識して、幅広い世代が、見守り、支え合い、助け合うための、つながりを築き上げることが必要であるとしています。

資料14ページに移りますが、6点目は、共生社会への対応です。

現在は、性別や年齢、国籍、障がいの有無、性的指向・性自認など、それぞれの異なる多様性を理解して、受け入れていくことが求められており、また、みんなが尊重され、認め合う社会の実現が重要とされています。

江別市では、これまでも共生社会の形成に向けた取組を行ってきておりますが、今後も、まちづくりの基本となる協働の視点に加えて、様々な分野において、多様な主体が、ありのまま、誰もがいきいきと暮らせる社会を目指して取り組む必要があるとしています。

7点目は、持続可能な行財政運営です。

地方行政は、人口減少や少子高齢化が進む中、多様化・複雑化する様々な課題に対応する健全な行財政運営が求められているほか、他自治体などとの連携により、広域的な課題解決に向けた取組の重要性が高まっています。

江別市でも、全国的に見込まれている地方行政の課題と同様の課題が想定されていることから、事業の見直しを行いながら、人口減少対策や企業誘致などを積極的に行い、市税収入の確保に努める必要があります。

また、市職員の人材育成にさらに力を入れるほか、他自治体などと連携を図り、安定した行財政運営を行う必要があるとしています。

以上が、まちづくりの主な課題であります。

資料15ページをご覧ください。

3めぎすまの姿であります。めぎすまの姿は、総合計画の最も重要な点であることから、数回にわたってご審議いただいたところであり、五つのまちづくりの基本理念と、将来都市像、また、将来人口の考え方や、都市づくりの方向性で構成いたします。

そして、資料15ページでは、まちづくりの基本理念を、資料16ページでは、将来都市像を、資料17ページ及び18ページでは、将来人口の考え方と、都市づくりの方向性をそれぞれ示しております。

なお、将来人口の考え方では、現行の総合計画と同様に、人口推計を上回る人口を目指すほか、18ページの都市づくりの方向性では、土地利用や施設整備など、今後の都市計画の方針を示す、都市計画マスタープランとの関連性を意識した都市づくりの方向性を記載しております。

次に、資料19ページ及び20ページをお開き願います。

4まちづくり政策一覧であります、こちらは、これまでご審議いただいていたものであり、九つの政策と、26に及ぶ取組の基本方針から成るものであります。

以上が、資料1の説明となりますが、再度、ページの表紙をご覧いただきたいと存じます。

下に赤字で記載しておりますとおり、この冊子で使用している写真や図、イラストのほか、ページデザインは、製本時に変更・加工を行ってまいりたいと考えております。

続いて、資料2をご覧いただきたいと存じます。

こちらは、今ほどご説明いたしましたまちづくり政策の詳細を示した資料であります。

なお、前回までにご審議いただいていたまいりました本資料の内容に変更はございませんので、説明は割愛いたします。

そして、現在は、便宜上、資料1と2の二つに分けておりますが、冊子にする際には、1冊にして製本いたします。

説明は、以上でございます。

(明神会長)

事務局から説明いただきましたが、委員の皆様から質問などはございますか。

(猪狩委員)

公募委員の猪狩です。資料1に関しまして、感想を述べさせていただきます。

資料を拝見させていただき、前回の審議会からの限られた時間の中での作業は非常に大変だったのではないかと感じております。

そして、「えべつまちづくり未来構想」が、冊子になったときのイメージを拝見させていただき、冒頭の将来都市像の見開きページや体系図などは、とても見やすく工夫された構成になっていると感じました。

全体的にも分かりやすく、江別市の強みなどは、市民のみならず、市外の方や、幅広い世代の方にとっても、読み進めやすい構成になっているとも思いました。また、現行の第6次総合計画の冊子は、社会動向と現状のみの記載にとどめられていますが、この資料では、江別市の課題まで述べられているので、「めざすまちの姿」へのつながりが分かりやすく感じました。

今後は、幅広い世代の方々にご覧いただくために、例えばですが、「物価高騰」など、小学生が読めない可能性もありますので、表記などを見直していただければ、さらに良い計画書になるのではないかと思いました。

(事務局)

ページの構成につきましては、内部でも検討を重ねてまいりました。また、最後にお話しいただきました、表記については、極力、小学校で習う漢字を用いるようにしたところですが、ご指摘いただきましたとおり、「物価高騰」など、もう少し表現を工夫しなければならないところもあることが分かりましたので、もう一度点検して、子どもから大人まで、幅広い世代にご覧いただけるようにしたいと考えております。

(明神会長)

他に、皆様からご質問はございませんでしょうか。

一つ、私から質問いたします。見開きに将来都市像とイラストがありますが、このイラストが、今後写真に置き換わるということなのでしょうか。

(事務局)

昨年度から、市では「子育て応援のまち・えべつ Instagramフォトキャンペーン」という事業を実施しております。当該事業は、市内で撮影した子どもたちの写真を募って、江別市の魅力をPRするとともに、抽選で選ばれた投稿者に、江別市の特産品をプ

プレゼントするという事業であります。

この見開きページに、今年のキャンペーンで集まった子どもたちの写真を載せることによって、「幸せが未来へつづくまち えべつ」という将来都市像を、よりPRできるのではないかと思います。また、市で行う事業ともしっかりと連携しながら進めていきたいと考えておりましたので、子どもの写真をたくさん載せて、子育てに関連する事業のPRも行いたいと思っております。

(明神会長)

ほかに、委員からご意見はございませんか。

(なし)

それでは、これまで専門部会を含めて、延べ10回にわたり進めてきた、「えべつまちづくり未来構想」の審議を終えたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

(了承)

以上で、「えべつまちづくり未来構想」についての審議を終えることといたします。

(2) 第7次江別市総合計画「えべつ未来戦略」の案について

(明神会長)

次に、(2)「えべつ未来戦略」の案についてを議題とします。

まず、総合計画における「えべつ未来戦略」の位置付けについて確認したいと思います。

総合計画は、「えべつまちづくり未来構想」と「えべつ未来戦略」の2本柱で構成されております。

未来構想が、10年間のまちづくりの方向性を示すものであるのに対して、未来戦略は、総合計画の前半5年間で、重点的・集中的に取り組む内容を、戦略として示すものであります。

それでは、市長から資料3の「えべつ未来戦略」についての説明をお願いいたします。

(後藤市長)

それでは、私から、第7次江別市総合計画「えべつ未来戦略」の案について、ご説明申し上げます。

資料3をご覧ください。

はじめに、未来戦略の体系は、現行の未来戦略と同様に、基盤、推進機能、戦略で構成いたします。

また、これらを一体的に進めることで、第7次総合計画の将来都市像として掲げている「幸せが未来へつづくまち えべつ」の実現につなげてまいります。

それでは、順に説明いたします。

はじめに、各戦略を実現するための基盤として、「協働」を掲げます。また、キャッチフレーズを設けて、協働のイメージを分かりやすく表現することにいたしました。

次に、各戦略を円滑に進めて行くための推進機能ですが、「情報発信」と「ICT化」の二つを掲げて、これも分かりやすいフレーズを設けることにいたします。

まず、「情報発信」は、全ての施策を推進するために重要な取組です。

市では、これまでも情報発信に力を入れてきましたが、今後は、さらに市民の皆さんに情報を伝え、また、市民の皆さんの声が行政に伝わるよう、双方向で情報共有を図ることができる取組を行ってまいります。

次に、「ICT化」ですが、全国的にデジタル化が進む中、今後、多様な市民ニーズに

応えるために、情報通信技術、いわゆるICTの力を活用してまいります。

なお、推進機能を検討する際には、行政審議会の委員の皆様のご意見を踏まえながら作成したところでございます。

次に、五つの戦略テーマについて説明いたします。

なお、戦略テーマには1から5まで番号を付けておりますが、これは戦略の優先順位ではありません。

まず、一つ目は、「子どもが主役のまちをつくる」です。

国では、こども家庭庁を設置して「こどもまんなか社会」を掲げるなどして取組を進めています。江別市も、国が行う子どもへの政策を見ながら、子育て支援策をさらに充実させて、子育て世代に選ばれ続けるために、今一度、何ができるのかを検討しながら、積極的に取り組んでまいります。

二つ目は、「幸せに歳を重ねられる暮らしをとどける」です。

年齢を重ねても、このまちで安心な生活を送り、多くの方々が交流できる共生のまちづくりに取り組んでおりますが、その実現には、市民の皆さんが健康であり続けることが重要であるため、様々な健康づくりの取組を提供し、その輪を広げながら、生涯にわたって、江別市に住み続けられる環境を整えてまいります。

三つ目は、「みんなの働きがいと、元気な経済をつくる」です。

札幌市に隣接する優位性を生かして、地域に根ざした産業の振興を図るほか、未利用地を活用し、さらに魅力的なまちにしてまいります。

また、人口減少下にあっても、女性や若者などが、いきいきと働ける環境を整えていく必要があります。

四つ目は、「地域から地球温暖化防止に挑む」です。

今後、江別市でもゼロカーボンを実現するために、より具体的な施策を講じなければなりません。官民が協力し、エネルギーの地産地消を進め、環境負荷の少ないまちを目指してまいります。

そして、五つ目は、「デジタル技術で住みよい明日（あす）を切りひらく」です。

今は、デジタル技術の活用によって、これまでの仕組みを変革できるようになりました。あらゆる分野で新しい技術を積極的に活用し、生産性を高めながら、人手不足の解消にもつながる取組を行ってまいります。

以上が、「えべつ未来戦略」のテーマでございます。

最後になりますが、私は、第7次総合計画に掲げる将来都市像の「幸せが未来へつづくまち えべつ」を実現するためには、まず、人口減少対策に取り組むことが重要だと考えております。

なお、今まで申し上げた未来戦略では、直接、人口減少対策という文言を使っておりません。

しかし、これらの戦略全てが、人口減少対策につながることを意識し、力強く、まちづくりを進めてまいりたいと考えております。

説明は、以上でございます。

(明神会長)

ただいま、市長から「えべつ未来戦略」の案について説明いただきました。

未来戦略の構成は基盤と推進機能、そして五つの戦略にするとのことでした。

これらにつきましては、次回の審議会においてさらに具体化した内容をお示しいただいて、審議してまいりたいと思います。

それでは、「えべつ未来戦略」テーマの案につきまして、委員の皆様からご意見はございますか。

(岡委員)

子育て支援ワーカーズきらきらの岡です。この未来戦略の中の「子どもが主役のまちをつくる」というところで、次回、その具体的なお話をされるとおっしゃっていましたが、例えば、「子どもの権利条例」についてなどを具体的に議論したり、検討したりする場合は、今後設けていただけるのか、お聞きします。

(事務局)

ただいま、岡委員からいただきました「えべつ未来戦略」の具体的なお話になりますので、私からご説明いたします。

本日は、未来戦略の大きなフレームとして、テーマを市長からご説明申し上げたところでございます。

次回以降は、この未来戦略をどのように推進していくかなど、具体的な内容をお示したいと考えております。

子どもの権利条例のお話をいただきましたが、現時点では、その具体的なフレーズが入るかどうかは分かりませんが、詳細な内容を次回お示しして、ご審議いただきたいと考えております。

(明神会長)

私から、一つお聞きします。

この未来戦略を実行すると、まちづくり未来構想の「めぎすまちの姿」である、まちづくりの基本理念や、将来都市像が実現されるという関係だと思えます。資料1の見開きページで、体系図がございましたが、「えべつ未来戦略」と、めぎすまちの姿との関係は、どのようになっていますか。

(事務局)

資料1の6ページをご覧くださいと思います。

冒頭で申し上げましたとおり、第7次江別市総合計画は、現行の総合計画と同様に、未来構想と未来戦略の2本柱で進めていきたいと考えております。

そして、資料1の6ページに記載しておりますとおり、未来戦略は、江別市の特色や優れた点を生かして、まちの魅力を高めながら課題の解決につながるテーマを設定し、重点的・集中的に取り組んでいくこととしています。

今後、このテーマに、関係するまちづくり政策を紐付けて、重点的・集中的に取り組んでまいります。

したがって、未来戦略に紐付けるまちづくり政策を進めることによって、将来都市像の実現につながるものでもあります。

(明神会長)

次回以降に、関連するまちづくり政策など、具体的な内容を考えていくということでしょうか。

(事務局)

未来戦略のテーマは五つございますが、次回以降、この未来戦略と深く関係し、重点的・集中的に取り組んでいくまちづくり政策について、庁内での検討を行いまして、お示したいと考えております。

(明神会長)

まちづくりの基本理念に、例えば、「自然とともに生きるまち」がありますが、それにつながる未来戦略はどれになるのでしょうか。

(事務局)

基本的に、未来戦略は、まちの課題を解決し、魅力を高めていくことにつながるものを設定しているものでございます。

したがって、総合計画の前半5年間で、まちの課題を解決し、まちの魅力を高めていくテーマを掲げておりますので、まちづくり政策全てに、紐付くわけではないことをご理解いただきたいと思います。

(明神会長)

しかしながら、まちづくりの基本理念にはつながらなければならないと思いますが、いかがでしょうか。

(事務局)

構想部分では、まちづくりを進めていくために、この五つのまちづくりの基本理念に基づいて進めていくこととなります。それを行うことによって、将来都市像を実現するという考え方です。

一方で、前半5年間で集中的に取り組んでいかなければならない事項が、未来戦略になりますが、この未来戦略も、まちづくり政策と紐付いて取り組むものでありますので、未来戦略の推進により、将来都市像の実現が図られる構成になっております。

(小野秀司委員)

公募委員の小野秀司です。本日、市長がいらっしゃっていますので、お考えを伺いたいと思います。

この未来戦略の全体図は、様々な分野があり、それをコンパクトに、非常にうまくまとめられていると思いますが、一方で、未来戦略で行う内容を端的に言うと、何なのかと感じる方もいると思います。

それが、「幸せが未来へつづくまち えべつ」につながっていくことなのかもしれません。先ほど、戦略は五つあり、特に優先順位はないというご説明がありました。

一方で、市長のご挨拶で、江別市を、人にも企業にも選ばれるまちにしたいとおっしゃられており、非常に分かりやすく、よく理解できました。

そういった中で、やはり選ばれるというからには、例えば、江別市は、石狩市とは違う、北広島市とは違う、千歳市とも違うという、やはりどこかで違いを出さなければならないと思います。

良い表現ではないかもしれませんが、差別化するという面で、どこかに重点や比重などの置き方が変わってくるものと思います。そういった意味で、この未来戦略の全体図、あるいは他の部分でもいいのですけれども、こういったところに市長の考え方を落とし込みたい、重点、力点を置きたいといったところがあれば、お伺いしたいと思います。

(後藤市長)

今、小野秀司委員がおっしゃったように、私自身は、江別市を笑顔あふれるまちにすること、人にも企業にも選ばれるまちにする、この二つを訴えてきたところです。

まず、最初にやらなければならないと思っていることとして、両方に共通するのは、人口減少対策だと先ほども申し上げたとおりですが、今一番にやらなければならないと思っている分野は、やはり、子育て分野になってくると思っています。

そこで、今回の補正予算の中でも、子どもにかかわる子育てと教育の二つの分野について、差別化していくなど、一番に出していかなければならないと考えております。

(春日委員)

先ほど説明された「えべつまちづくり未来構想」は、冊子にするというお話でしたが、この「えべつ未来戦略」も冊子にされるのでしょうか。

(事務局)

現行の第6次総合計画でも、前半5年間と後半5年間の戦略を冊子にしておりますので、今回も同様に、未来戦略を策定した際には、製本したいと考えております。

(本山委員)

少し話がずれてしまうかもしれませんが、人口減少対策や子育て・教育に力を入れていくというお話があったと思います。私も、人口減少対策として、そういったことに取り組むことは大事だと思いました。

一方で、大学生という私の立場で発言いたしますと、資料1の3ページにあるように、総人口に対する大学生の割合が、道内第1位という記載がありました。

私自身も、酪農学園大学に就学しております。市外や道外から来ている学生が多く、江別市には大学生活の4年間だけ住むという学生が多いように思います。そして、学ぶ分野によっては、大学卒業後に市外に転出していく状況にあります。

江別市の強みを生かして、人口減少対策を進めていくのであれば、子育てなど、もちろん保護者にとっての支援も重要だと思いますが、大学生は確実に4年間、江別市に住むので、卒業後の定住につながる観点から、大学生に向けても何か支援をしていただけたらうれしいと思いました。

(後藤市長)

ご意見ありがとうございます。江別市は総人口に占める大学生の割合がとても高いですが、本山委員がおっしゃるとおり、江別市に残ってくれないことが大きな問題です。

せっかく江別市で4年間過ごしていただいても、大学を卒業してしまうと地元に戻るなど、市外、道外に転出し、就職してしまう方が多く、なかなか江別市に残らない実態があります。

こういった方々に対して、どのような取組を行うのかというのは、私どもがこれから考えなければならない対策の一つになってきます。

そういった中で、直接の支援になるかどうかということではありますが、働く場所を何とかできないだろうかと考えています。

今、江別市には多くの企業がありますが、大きな企業はあまり多くありません。それでも、特色と魅力のある企業は数多くあります。そういったところを、大学生の皆さんに紹介して、まずは、市内でも働けるところがあるということを知ってもらおうことが一つだと思います。

確かに、直接支援しなければならないところも出てくるとは思いますが、そこは、今後も考えていきたいと思っています。

(本山委員)

もう一点ですが、大学生が、江別市に定住することが難しいと私自身も感じています。なぜなら、私が今学んでいる分野は、環境共生学類で、野生動物などを扱う分野ですが、そういった分野を職業につなげる場合、江別市を出る可能性が高いため、江別市への定住はとても難しいと思います。

その中で、私が、江別市で地域活動などに参加したときに、とても良いと思ったのが、関係人口という考え方です。その地域に定住するほど深くはないけれど、観光に来るといった薄い関係でもないということで、その地域と細く長くつながっていこうという考え方が、関係人口です。

そういったつながりを、学生一人ひとりと作ることができたら、定住や、人口増加など、直接的な変化は起こらないと思いますが、将来的に長く見ると、メリットがあると感じています。

また、地域活動をしている方がおっしゃっていたことで、学生側としてはとてもうれし

いと思ったことがありました。それは、一度は、その地域から出ていってしまうかもしれないけれども、10年後、20年後にまた帰ってきてくれたらうれしい、と行ってくださったことです。

大学生としても、いつでも待っていると思ってくれる地域があるのは、素敵なことだと思います。

(後藤市長)

今、本山委員がおっしゃったように、地域活動ということで、江別市が取り組んでいる事業としては、「ジモ×ガク(学生地域定着自治体連携事業)」という事業で、市内の大学生に地元のことを知ってもらおうということと、地域のことを知ってもらおうという事業があります。

また、「EBETSU to(えべつと)(大学生等地域関係促進事業)」という事業で、大学生の皆さんに、江別市のことを好きになっていただく取組も行っています。

そういった取組の中で、地域のことを知っていただいて、おっしゃるとおり、江別市を離れるけれども、江別市は良いところだったよねと思ってもらえるような仕組みを、市も作らなければいけないと思っています。

また、少し別の観点から言うと、ふるさと納税でも力を貸していただけると、非常に江別市にとってプラスになると考えております。

いずれにしても、せっかく4年間、江別市にいる大学生に対して、江別市のファンになっていただいて、その関係がずっと続くように、江別市の魅力を高めていかなければならないと考えております。

また、そういった魅力の発信の仕方について、大学生の皆さんからも、このように発信するといいですよという意見もお聞きしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(明神会長)

ほかに、委員からご意見はございませんか。

(なし)

それでは、以上で、次第4の審議事項を終わります。

事務局においては、本日の委員からの意見などを整理して次回の審議会で報告いただきますようお願いいたします。

5 その他

(1) 次回の日程について

(明神会長)

次に、次第5のその他、(1)次回の日程についてを議題といたします。

事務局から説明願います。

(事務局)

次回、第7回の行政審議会について、ご案内申し上げます。

次回の行政審議会では、本日ご審議いただいた内容を整理した結果を報告するほか、「えべつ未来戦略」における具体的な内容についてご審議いただきたいと考えております。

その他、「えべつ未来戦略」に関して答申に付す意見をご協議いただければと考えております。

したがいまして、次回は、6月下旬の開催を想定しております。

開催日につきましては、後日ご案内申し上げますので、よろしくお願いいたします。

(明神会長)

ただいま、事務局から、次回の審議会は、6月下旬に開催予定との説明がありましたが、各委員から質問等はございますか。

(なし)

(2) その他

(明神会長)

最後に、(2) その他について、委員の皆様から何かございますか。

(なし)

6 閉会

(明神会長)

本日予定していた議事は、全て終了いたしました。

以上をもちまして、第6回江別市行政審議会を閉会いたします。